

これから発表される邱研究員は、6月に当研究所に着任されたばかりです。本日は英語で発表されますが、驚くほど立派な日本語も話されます。

本日発表されるのは、日本に比較的近い台北という都市を対象にした研究です。台北はモーターバイクが多い都市ですが、最近ではシェアサイクルもここ十数年に増えて、都市の交通体系をいろいろ工夫している最中にあり、1996年に地下鉄の整備が始まって、今に至るまで大いにネットワーク化が進んでいます。

本日の発表では、特にパーソントリップ調査、これはインタビュー調査で大量のデータを集めて各地域の都市の交通計画の策定に使われていますが、その2時点の調査データを使って、モーターバイクが多いまちで、地下鉄の整備によりモードチョイスがどう変わるか、あるいは、地下鉄の整備とともに、都市が様々に発展する中での土地利用と環境の変化で利用形態がどう変わるか、という2点について、第1部の安部客員研究員が使われたような統計分析をこちらでも使って考察しています。ロジットモデルも出てきます。ペンシルベニア大学は、地域科学を世界に大きく広め、現在改組されて地域研究というコースを持っていますが、そのコースで博士課程を取得されました。その論文の一部の発表です。

兵藤先生は、交通分野、特に物流関係の第一人者で、同時にアジア交通学会で長らく活動されて、現在事務局長を務められています。途上国のお仕事も非常に多く、造詣が深い交通分野の第一人者でいらっしゃいますので、そのコメントにも大いに期待しています。

それでは、皆様、最後までお付き合い頂ければ、と存じます。

以上